

「みんなと遊ぶ」って

集団遊びを通して…

楽しい〜!!



足羽東こども園では年齢に合わせて集団遊びを活動にとり入れています。集団遊びとは、多くの子どもが集まり、一つの遊びを皆で楽しむことを目的とした活動のことです。今回は、家庭ではなかなか味わえない遊びを通しての子どもの変化、どのようなメリットがあるかについて、また具体的な集団遊びの内容についてご紹介します。

子どもの変化

友だちでできるかな…

3歳の夏ごろに途中入園してきたAちゃん。初めてのこども園で知らない場所、たくさんの人を目の前にし、不安や寂しさからか登園時には涙することもありました。日中の活動時は一人で遊んでいることが多かったのですが、友だちからの誘いで同じ玩具を使って遊ぶなどの姿も見られていました。

そんな中、日々の活動で集団遊びを多くとり入れてみました。最初はみんなと一緒に遊ぶことの戸惑いからか嫌がつて参加できないAちゃんでしたが、保育教諭も無理に誘わず、まずは友だちの遊ぶ姿と一緒にいることから始めました。

数日経ち、友だちが楽しそうに遊んでいる姿を見て、自然と笑顔になるAちゃん。「一緒にやってみようか」と誘

い、保育教諭がそばに寄り添うことで徐々に集団遊びに参加できるようになりました。わらべ歌遊びで友だちと手をつないで一緒に歌ったり、勝ち負けのある遊びでは、チームが勝つと友だちとハイタッチして喜んだり、「友だちと一緒に…」という楽しさを感じているようでした。

また、ふだんの園生活にも慣れ始め、友だちとのかかわりも増え、遊びの中で言葉のやりとりも聞かれるようになりました。「○○ちゃんいれて」と自分から積極的にかかわろうとする姿も見られ笑顔が増えていきました。



「鬼」が怖い…

友だちとかわかるのが大好きなBちゃん。「なにし

てあそぶ？」と保育教諭に尋ねたりと、毎日の活動も楽しみにしていました。

ところが『爆弾おに』や『しっぽとりおに』の集団遊びを始めると、参加を嫌がりました。保育教諭が誘い、鬼役になりBちゃんを追いかけると大泣きしてしまいました。なぜ遊びたくないかを聞くと「鬼が怖い…」と答えました。

そこで、クラス担任でどうしたらBちゃんが楽しく遊べるようになるかを考えました。そして遊びの名前を『○○おに』から『○○ゲーム』に変え、またBちゃん自身に鬼役をしてみるように誘ってみました。

すると鬼役を喜び、友だちにボールを当てたり、友だちのしっぽがとれたりすると、うれしそうな様子。その後「次は逃げてみようか」と促すと逃げ役にも参加し、一生懸命走るなど、遊びを楽しめるようになりました。

その他の集団遊びの紹介

ボールもどろろ

- 保育教諭は、ボールを持っている子を追いかける
- ボールを持っている子は、椅子に座っている他の友だちにボールを渡す
- 渡された子は立ち、また別の子にボールを渡す
- ボールを持っていた子は、渡した子の椅子に座る
- 何度か繰り返し、ボールの数を増やしていく



- ❖ 積極性
- ❖ すばやい判断

もうじゅう狩りにいこう

- 「もうじゅうがりにいこうよ」と保育教諭が歌った後に繰り返して歌う
- 歌の最後に『○○○(動物の名前)』と保育教諭が言ったら、動物の名前の文字数と同じ人数の友だちが集まって手をつなぎ、座る

(例) ぞう → 2人
らいおん → 4人



- ❖ 数字の理解
- ❖ さまざまな友だちとのかわり

オセロげーむ

- 2チームに分かれ行う
- 相手チームの色の段ボールオセロを、自分のチームの色にひっくり返すゲーム
- 終了の合図でオセロ(赤と青)の数を数え、色の数が多いチームの勝ち



- ❖ 仲間意識の芽生え

集団遊びをとり入れていく中で、集団になかなか馴染めない子…、対戦に負けると悔し涙を流す子…等さまざまな様子も見られました。多くの子どもがいる中で、一人ひとりと向き合う難しさも感じましたが、遊びの内容を変えたり、気持ちに寄り添っていくことで子どもたちの変化もみられました。

また、保育教諭が集団遊びを盛り上げ、一緒に楽しむことで子どもたちから「もう一回したい」と意欲的な声も多く聞かれるようになりました。

今後も、集団遊びを通して友だちとの遊びの楽しさを伝えながら、子どもたちの互いのかかわりを深められるよう工夫していけたらと思います。そしてなにより保育教諭自身が「楽しむ」ことを忘れず、一緒に学びながら、集団遊びにとり組んでいきたいです。

保育教諭 井上鳩子